



宍粟市 安賀地区（安賀地区圃場整備推進協議会）



【地区の概要】

集落人口：268人

高齢化率：36%

米の食味検査：85点以上

清流揖保川水系引原川のきれいな水

水稻・根菜に適した「黒ボク土壤」

昼夜の寒暖差大

特産品：自然薯



当地区は、揖保川水系引原川の右岸に位置し、周囲を山に囲まれた小さな集落です。

高齢化の進行により、農地や農業施設の保全管理が難しい状況となったほか、地域コミュニティも弱体化し、住民は危機感を募らせていました。

そこで、これらの問題を解決するために地域で話し合いを重ね、ほ場整備によるハード対策と、地域一体となっての保全管理や都市住民との交流といったソフト対策の両面から、地域の活性化を進めていくこととなりました。



中学生も参加
保全管理活動



チャンチャコ踊り

平成24年より、農地環境整備事業に着手、ほ場の大区画化や農道・用排水路の整備を実施しました。また、赤字続きで平成10年に活動を休止した営農組合を再開し、現在は地区内農地の約9割に当たる9haを受託し活動しています。

水稻栽培に加えて、宍粟市の特産品である自然薯の栽培にも力を入れており、将来は、とろろパックの製造販売といった6次産業化も推進していきたいと考えています。

子ども達も参加する地域住民全員での保全管理活動、神戸市の幼稚園児・保育園児を招いての田植え体験や収穫体験といった農村環境保全活動を積極的に実施するとともに、地域の伝統である「チャンチャコ踊り」を継承するなど、多岐にわたり活動に取り組んでいます。



自然薯栽培



田植え体験

【将来の展望】

★農地中間管理機構を活用した安賀営農組合への農地の集積・集約化
一集落一農場方式

★安賀営農組合の法人化

特産「自然薯」をすりおろしたとろろのパック販売を実現
新たに建設する加工場を地域の高齢者の活躍の場に

★古民家を拠点とした更なる都市・農村交流の活性化
県内外から農業体験・農泊等を受け入れ